

約2割、さらには、一つだけ答えたがそれが誤っているものが約1割となっている。

ここでたいせつなことは、一つの語句に二つ以上の意味がある場合は、それを文脈の流れの中で、前後の関係から正しく識別しなければならないということである。この問題の正答率が低かったということは、それぞれの場面に応じて、語句の正しい意味を識別し理解するという能力が、不十分であることを示しているものということができよう。したがって、この分野についての指導を強化していく必要があるとされている。

(3) 読む(文・文章)

大問番号	ね ら い	小問数	大 問 正答率
一	細かい点に注意して読む	4	80.8
二	文章の要点を読みとる	2	51.9
三	事実と意見を判別して読む	2	35.6
四	主語・述語をつかむ	3	75.1
五	修飾語・被修飾語をつかむ	3	63.2
六	文の続き方がわかる	2	58.1
七	文体のちがいがわかる	2	83.1
八	段落の関係をつかむ	2	64.5
	段落の要点をつかむ	1	76.9
九	文章の要旨をつかむ	2	65.1
十	場面や事物・心情を読みとり、表現のすぐれているところがわかる	4	53.7

上記の表でも明らかな通り、この領域では、「事実と意見を判別して読む」の正答率が、35.6%と低くなっているほかは、10分野中7分野までが60%台から80%台の高い正答率になっている。正答率が低かった「事実と意見を判別して読む」分野についての問題は、この種のテスト問題としては割合長い文章を取り上げ、その中から主人公の考えを述べている「文」を、二つ選ばせるようにした問題である。長い文章とはいつても、

総字数490字、15文3段落構成であるが、この程度の文章でさえも、事実と意見を区別して読むということは、なかなか容易ではないようである。

一般的にいつて、読解指導については比較的よく行なわれており、したがって、国語の各領域ごとの基礎能力の中では、読解能力がもつともよく定着していると思われるが、長文の読解になると前述のように、まだ問題は多いということが出来る。割合に短い文章を問題素材にした場合には、指示語や接続語の機能に応じた読みとり、主語、述語、修飾語、被修飾語の関係理解、文や段落の要点、要旨の把握などの諸能力は、かなり確実に発揮されるようになってきている。このことから考えて、高学年においては、読解に関する諸能力の定着化をはかるとともに、さらに読書活動などのいろいろの場面をとらえて、こういった能力の活用化を考えていかなければならない。

(4) 書く(文字)

大問番号	ね ら い	小問数	大 問 正答率
一	漢字を正しく書く	10	39.9
二	同音・同訓の漢字を使い分ける	4	41.2
	形の似た字を使い分ける	4	42.9
三	正しい筆順で漢字を書く	2	59.8
四	送りがなを正しく書く	4	76.3
五	かなづかいを正しく書く	4	72.2

この領域では、「漢字を正しく書く」、「同音同訓の漢字を使い分ける」、「形の似た字を使い分ける」の三分野の正答率が低いので、そこを重点的に分析し考察することにしよう。

① 漢字を正しく書く

調査の対象にしたのは、次の10問13字である。

- ア 音読み 態、策、展、券、憲法、賛成、就職
- イ 訓読み 果たす、招く、暖かい